

会報

「学びの力と豊かな心」

～学校教育の中核としての学校図書館を目指して～

岐阜県学校図書館協議会会長 野村 務

日の丸のメダルに沸いて春きざす

この原稿を書いている今、バンクーバーの冬季オリンピックでの日本選手の活躍に一喜一憂しています。一人の選手のがんばりや活躍が、多くの人を勇気付けることを目の当たりにしています。本会においても、今年度うれしいニュースが飛び込んできました。全国青少年読書感想文コンクールで、大垣市立中川小学校4年の藤田ひかるさんが文部科学大臣賞、可児高等学校1年の亀谷拓史さんが学校図書館協議会長賞に輝きました。昨年度も、御嵩町立御嵩小2年水野鈴香さんが内閣総理大臣賞（最優秀賞）、岐阜北高等学校2年舟口博梓さんが毎日新聞社賞を受賞しました。こうしたニュースは、本県のこの分野における児童生徒のレベルの高さ、各学校の指導のレベルの高さを証明するもので、改めて指導や審査にかかわった先生方のご尽力に感謝の思いで一杯です。



さて、この機会に本年度の取組・歩みの中からトピックを選んで簡単に紹介します。

- ・ 8月4・5日に三重県伊勢市で第34回東海地区学校図書館研究大会（伊勢大会）が開催され、次期開催県の代表として参加しました。いよいよ次は本県です。本県では、平成23年8月4・5日に大垣市で開催します。上に挙げた表題はこの大会主題で、学校職員全てが学校図書館の重要性を共有する場にしたいと考えています。幅広く参加を呼び掛けますので、県図書館協会の各団体の皆様にも、絶大なるご支援をお願いします。
- ・ 11月13日県図書館協会主催の「図書館活動研究大会」に参加して、日本図書館協会理事の常世田良氏の講演をお聴きし、図書館の可能性について知見を拓けることができました。
- ・ 全国学校図書館協議会第24回総会(2/4)に参加しました。社団法人としての協議会の全体の動向とともに、各県の情報等を知る機会となりました。本県の東海大会を控えて、特に来年度の全国大会（静岡大会）にも学ばねばならないと思いました。
- ・ 図書館利用記録コンクール(1/23)、読書ゆうびんコンテスト(2/20)の表彰式に出席して、晴れがましい受賞者の緊張した中にも笑顔のこぼれる姿が印象に残ります。この子たちは、これを励みとして、自信をもって自らの生活を高めていくだろうことを確信しました。

岐阜県大学図書館協議会活動報告

岐阜県大学図書館協議会では、平成21年度に次の活動を行った。

- 運営委員会（7月14日岐阜大学）
- 総会（7月27日岐阜県立看護大学）
- 研修会（10月19日関西大学総合図書館及び大阪大学附属図書館の施設見学）

総会では、平成21年度当番館の岐阜県立看護大学において会務報告、岐阜県図書館協会の状況に関する報告の後、決算・予算及び研修会の概要について審議を行った。また、継続検討中の公共図書館の連絡便を活用した大学図書館資料の相互貸借のあり方等についても活発な意見交換を行った。

研修会は、関西大学総合図書館及び大阪大学附属図書館の施設見学を行った。9会員館18名の図書館職員が参加し、関西大学では2班に別れて図書館職員から図書館の概要について詳細な説明を受け、約205万冊の大学トップクラスの蔵書数にも圧倒された。また、ひっきりなしに入館ゲートから入ってくる利用者の多さに驚かされた。大阪大学では特に学習活動を支援する空間ラーニング・コモンズ(756㎡)の施設に興味をひかれた。ラーニング・コモンズは、図書館が所蔵する紙媒体資料と電子ジャーナル・データベースなどの新しい電子媒体資料の双方を自由に利用できる新しい学びの空間であるとの説明を受けた。

両大学の図書館サービスについて実際に見学できたことから、これからの大学図書館には常に教育・研究のための新しい試みが求められていることを再認識した。

(岐阜県大学図書館協議会事務局)

岐阜県公共図書館協議会活動報告

◆今年度の活動

前年度までに相互協力委員会が作成した図書館評価のためのチェックリストをもとに各加盟館で事業等を点検し、点検結果に基づく改善が行われた。今年度の相互協力委員会では図書館紹介マップの作成について検討を始めた。

また、各館の利用案内や図書館だより等の配布をするために、パンフレットスタンドを購入、県図書館ロビーに設置するなど、各館のPRに向けた活動を新規に開始した。

各加盟館の職員がスキルアップする機会として、研修会を計5回実施(共催含む)。このうち職員研

究集会は、東海北陸ブロックで年1回開催される「日本図書館協会地方講習会」と合同開催とした。「図書館の底力—今できることを考える—」と題し、根本彰氏(東京大学大学院教授)を講師に招き、講義とワークショップを行った。

◆県内公共図書館の動き

各地で図書館機能の充実・整備や、住民とともにある図書館づくりが進められている。

飛騨市では7月、ICタグの導入など充実した設備をそなえた新図書館がオープン、市民のための図書館をめざし、ボランティアとの連携が進められている。8月には美濃加茂市が3ヶ所目のサービス拠点として北部分室を開室した。中津川市では9月に新市立図書館建設用地取得費用を含む予算案を可決、その後新図書館のコンセプトを描く市民協議会が話し合いを重ねている。岐南町では、町民参加型の図書館づくりを目指して利用者らによるワークショップを実施し、提言をまとめ町長に伝えた。

◆岐阜県図書館について

県図書館の今後の動向にも県民の関心が集まった。県図書館では10月にウェブサイトのリニューアルし、県内市町図書館のイベント情報の掲載を開始した。また2月に「岐阜県図書館改革アクションプラン案」を策定し、館内レイアウトや利用者サービス方法の変更等、県全体の図書館サービスの向上を目指すこととした。

(岐阜県公共図書館協議会事務局)

岐阜県公民館連合会活動報告

◆社・公連携の方向づけ

県内市町村にはそれぞれ10名前後の社会教育委員が任命され、総数は457名に上る。社会教育委員の職務は・教育委員会への助言・社会教育諸計画の立案・社会教育諸団体への指導助言等であり、各市町村の社会教育推進の指導的役割を担っている。

それに対して公民館は地域住民を対象とした社会教育の実践的立場にあり、社会教育法に基づく公民館は県内に335館が設置されている。

社会教育委員と連携を図ることによって、公民館活動が「市町村社会教育構想」全体の枠組みの中で捉えることができるようになり、より総合的に社会教育を推進できることを期待している。

岐阜県では平成20年の東海北陸公民館大会を契機にその連携が一層深まり、21年度には両団

体の共催による記念すべき第1回大会が下記のように開催された。

◆第1回岐阜県社会教育推進大会の概要

- ・期日 平成21年10月2日(金)
- ・会場 中津川市・東美濃ふれあいセンター
- ・大会主題 現代的課題に応える社会教育の推進
- ・参加者 542名
- ・主な内容

①講演会 講師：陶芸家 加藤幸兵衛氏
演題：やきものの東西交流

②シンポジウム

第1回大会であり、参会者にその趣旨を共通理解していただくため、分科会でなく全体会としてシンポジウムを行った。

コーディネーターに中部学院大教授・宮脇恭顯先生をお迎えし、社教3名、公民館3名のシンポジストの提案を基に「社公連携による社会教育の推進を目指して」のテーマに迫った。

③大会宣言

- *青少年が社会活動に参加できるまちづくり
 - *子どもの自立を支援する運動の輪づくり
 - *公民館を地域コミュニティの拠点としてさらに活発な活動を進める等、
- 5つの活動指針を最後に宣言し、採択した。

◆読書活動

ご承知のように公民館の図書室はささやかなものですが、公民館活動即ち社会教育を活性化することで、住民の読書意欲向上につながることを願っております。

(岐阜県公民館連合会事務局)

図書館活動研究大会報告

◆大会テーマ

「図書館利用の広がりをめざして
館種を超えた図書館連携」

◆大会目的

図書館は生涯学習の拠点としての役割がますます重要になってきており、利用者の多様なニーズに応えることが求められている。そこで図書館に求められる役割を共に考え、利用者の立場に立った図書館サービスのために必要な館種間の連携を生み出す機会とすることを目的として今大会を開催した。

◆講演会

演題：「つながる図書館
館種を越えた連携が生み出すか可能性」
講師：常世田良氏(日本図書館協会理事)

○講演の感想

「自己判断、自己責任型社会への移行に伴い、情報提供を行うべき図書館の役割について知ることができました。」

「貸出だけでなくサービスの連携というものに公共図書館が積極的に取り組んでいくということに大変魅力を感じました。」

「学校図書館はミニ公共図書館ではだめ…改めて、学校図書館のあり方を考えさせられました。図書主任としてどうあるべきなのか道が見えました。」



【分科会での交流の様子】

◆分科会：テーマ「図書館の連携のあり方」

- ・事例発表：5名(公共2、学校2、大学1)
- ・地区別意見交流会「他館との連携のあり方」

○分科会の感想

「こうした研修を通して人的な連携が深まることがあると思います。こういう機会が増えれば連携も増えるかもしれないと感じました。」

「学校図書館として公共図書館との連携を活性化していきたいと思います。」

◆大会まとめ

1. 異館種の情報交換と交流の場の必要性
2. 学校図書館と公共図書館の連携協力の事例紹介
3. 異館種間の相互貸借の拡大
4. 大学図書館、専門図書館についての情報提供と利用促進
5. 全国の図書館の状況や取り組みについての情報提供

(岐阜県図書館協会事務局)

相互協力部会活動報告

相互協力部会では、「岐阜県図書館協会相互貸借」及び「地区別連絡会」を通じた地域連携のあり方について検討を重ねた。

【岐阜県図書館協会相互貸借】

昨年度より、県内図書館の連携を促進するために、大学図書館とその地域の市町図書館との連携協議が行われてきた。また、相互協力部会では、資料の相互貸借の実施に向けて、具体的な方途を検討してきた。その結果、大学図書館と公共図書館の相互貸借実施に向けての第1段階として横断検索に参加している県内大学と岐阜県図書館間で協定締結の協議を開始することとした。

今年度は、3月4日に岐阜県図書館と中部学院大学・中部学院大学短期大学部間で連携協力に関する協定が締結され、22年4月以降は、資料の相互貸借、参考調査等の相互協力が開始されることとなった。今後は、公共図書館を窓口にも多くの方の利用を期待したい。

【地区別連絡会】

今年度より新たに開始した事業「地区別連絡会」に参加し、異館種の交流の促進について意見交換を行い、相互協力により得られる成果について認識を深めた。地区別連絡会には、可児市内小中高等学校の図書館関係の教諭・職員、可児市立図書館職員、相互協力員ら25人が参加し、学校図書館における利用のあり方、児童・生徒の読書傾向の実態、学校図書館が公共図書館に求める支援のあり方など活発に意見交換がされた。

今回の連絡会で得られた意見をもとに、次年度は公共図書館と学校図書館の連携協力について具体的な提案を検討したい。

【館種を超えた連携協力に向けて】

今年度は、「地区別連絡会」の開催により、地域における人と人のつながりを生み出したことが大きな成果である。

さらに、大学図書館と岐阜県図書館の協定協議により、大学図書館と公共図書館の連携に向けて一歩を踏み出すことができた。

今後も館種を超えた連携について具体例を積み重ねより多くの協力体制を築き、利用者のニーズに答えていきたい。

(相互協力部会)

平成21年度 事業報告

- 1 図書館活動研究大会 (138人参加)
平成21年11月13日(金) 岐阜県図書館
- 2 図書館実務講習会
(1) 岐阜県学校図書館協議会夏季ゼミナール
平成21年8月17日(月) (40人参加)
岐阜経済大学

- ◆ 講演「本というものの価値
～本を出版することと
その反響についての考察～」
講師 大西隆博氏
(「太陽の欠片 月の雫」著者)
 - (2) 図書館職員研修(初任者)(104人参加)
平成21年6月16日(火)、17日(水)
岐阜県図書館
 - ◆ 講義「図書館の仕事1
魅力ある本棚づくりー一般資料編ー」
講師 岐阜県図書館 木戸和子
 - ◆ 講義「図書館の仕事2 図書の目録」
講師 岐阜県図書館 石井芳枝
 - ◆ 講義「図書館の仕事3 図書の分類」
講師 岐阜県図書館 川田春代
 - ◆ 講義「図書館の役割
図書館サービスのありかたと
その実現について」
講師 ハートピア安八図書館
館長 梶井芳景
 - ◆ 講義「図書館の仕事4 協力すること」
講師 岐阜県図書館 稲垣哲久
 - ◆ 講義「図書館の仕事5
魅力ある本棚づくりー児童資料編ー」
講師 岐阜県図書館 加藤恵美
 - ◆ 交流会「図書館なんでも相談」
岐阜大学図書館 中齋二三博
岐阜県立郡上高等学校 一柳純子
岐阜県図書館 稲垣哲久
岐阜県図書館 酒向みゆき 他
 - 3 地区別連絡会 (25人参加)
平成21年12月11日(金)
可児市立図書館
 - ◆ 事例紹介
各務原市立中央図書館
可児市図書館
 - ◆ 交流会「学校と公共図書館の連携協力」
 - 4 資料発行
「会報」(38号) 平成22年3月
 - 5 会議
- | | | |
|--------|-----|-----------|
| 理事会 | | 6月10日(水) |
| 幹事会 | 第1回 | 5月20日(水) |
| | 第2回 | 3月12日(金) |
| 相互協力部会 | 第1回 | 9月8日(火) |
| | 第2回 | 10月23日(金) |
| | 第3回 | 12月11日(金) |
| | 第4回 | 2月18日(木) |

(岐阜県図書館協会事務局)